

教科	理科	学科	普通科		学年	1	年	必修科目
科目	科学と人間生活				単位数	2	単位	
使用教科書	科学と人間生活（数研出版）			副教材				

学校教育目標	高い志を立て、自己を練磨し、社会に貢献する人間の育成(立志・練磨)									
育成を目指す 資質・能力	基盤的学力	◎	協働力		論理的思考力	◎	傾聴力	○	課題解決能力	○
	表現力	○	判断力	○	考察力	◎	情報活用能力		コミュニケーション能力	
	基礎的読解力		創造力		洞察力		継続力		行動力	
	自己管理能力		共感力		自己実現力		復元力(折れない心)		自己肯定感	
学習の到達目標	・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。									
	・観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探求する力を養う。									
	・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。									

★評価規準	A: 十分満足できる	B: 概ね満足できる(基準)	C: 努力を要する
★単元ごとの評価規準 ヒトの生命現象			
★4月～6月下旬までの学習内容			
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
ヒトの生命現象について理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	生物の特徴について、観察、実験などを通して探求し、多様な生物がもつ共通の特徴を考察し、表現している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しを持って科学的に探究しようとしている。	
★何で評価するか	★何で評価するか	★何で評価するか	
・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート	・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート	・授業でのワークシート ・実験時のレポート ・考査前後の振り返りシート	

【学習計画】

月	単元	学習の目標(評価の観点: 評価方法)
4	第1章 ヒトの生命現象 1 遺伝情報とDNA 2 生命活動を支えるタンパク質	遺伝子の情報を基にタンパク質がつけられ、タンパク質がヒトの生命現象に関与していることに気づき、遺伝子を基につくられるタンパク質がヒトの生命現象を支えていることを理解する。
5	3 血糖濃度とホルモン 4 血糖濃度の調節と健康 5 免疫とからだの防御	すい臓から分泌されるホルモンの作用により血糖濃度が調節される仕組みを理解し、血糖濃度がホルモンによってどのように調節されているかを説明できるようになる。
6	6 免疫と健康 7 眼の構造とはたらき 8 光の情報と生命活動 定期考査	眼の基本的な構造及び眼で受容した光の情報が脳に伝えられて視覚が生じることに関与し、眼で受容した光の情報が脳で処理されることによって視覚が生じることを理解する。

★単元ごとの評価規準		材料とその再利用		★7月上旬～9月下旬までの学習内容					
①知識・技能		②思考・判断・表現		③主体的に学習に取り組む態度					
材料とその再利用について理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。		身近な材料の特徴について、観察、実験などを通して探求し、それぞれの特徴を考察し、表現している。		身近な材料に主体的に関わり、見通しを持って科学的に探究しようとしている。					
★何で評価するか		★何で評価するか		★何で評価するか					
・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート		・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート		・授業でのワークシート ・実験時のレポート ・考査前後の振り返りシート					
7	第1章 材料とその再利用 1 金属と人間生活 2 身のまわりの金属と製錬		日常生活に関わりの深い銅、鉄、アルミニウムなどを扱い、その性質と用途に関連付けて理解する。また、鉱石から金属を取り出す製錬についても既習内容と関連づけて理解する。						

自己評価			実際評価		
観点			観点		
①	②	③	①	②	③

自己評価			実際評価		
観点			観点		
①	②	③	①	②	③

8	3金属のさびとその防止 4プラスチックとその性質	金属の腐食とその防止について、金属によってイオンへのなりやすさが異なることと関連付けて理解する。プラスチックについては、身の回りで用いられているポリエチレン、ポリスチレン、ポリ塩化ビニル、ポリエチレンテレフタレート、尿素樹脂などを扱い、その性質と用途を関連付けて理解する。
9	5プラスチックの成りたち 6さまざまなプラスチック 7資源の再利用 定期考査	金属の腐食とその防止について、金属によってイオンへのなりやすさが異なることと関連付けて理解する。プラスチックについては、身の回りで用いられているポリエチレン、ポリスチレン、ポリ塩化ビニル、ポリエチレンテレフタレート、尿素樹脂などを扱い、その性質と用途を関連付けて理解する。

★単元ごとの評価規準 熱の性質とその利用、自然景観と自然災害			★10月上旬～3月下旬までの学習内容					
①知識・技能		②思考・判断・表現		③主体的に学習に取り組む態度		自己評価		実際評価
熱の科学や地球の科学について理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。		熱の科学や地球の科学について問題を見いだし見通しをもって観察実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し、表現している。		熱の科学や地球の科学に主体的に関わり、見通しを持って科学的に探究しようとしている。		観点		観点
① ② ③		① ② ③		① ② ③		① ② ③		① ② ③
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート		★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート		★何で評価するか ・授業でのワークシート ・実験時のレポート ・考査前後の振り返りシート				
10	第2章 熱の性質とその利用 1温度と熱運動 2熱容量・比熱 3熱の伝わり方	熱と温度、物質の熱容量と比熱容量(比熱)、熱の伝わり方、熱量の保存、仕事や電流による熱の発生について扱い、温度変化と質量や物質の種類との関係を見いだすことができる。						
11	4仕事や電流と熱の発生 5エネルギーの移り変わり 6熱エネルギーの利用 7エネルギー資源の利用 定期考査	エネルギーの変換と保存及び有効利用について、光エネルギーや化学エネルギーと熱エネルギーなどとの相互変換、熱機関の仕組み、エネルギーを有効に利用するための科学技術などを扱い、熱機関に関する歴史的な事項、熱が仕事に変わる際の不可逆性を理解する。また、エネルギーの有効利用については、効率の良いエネルギー利用などを扱い、日常生活との関わりについて理解する。						
12	第2章 自然景観と自然災害 1日本列島とプレート 2地震のしくみと地震活動	プレートの運動と地震の発生の仕組みについて、プレートの収束境界における地震の発生の仕組みを理解する。プレート内地震については、プレートの境界以外にも地震が発生することを知り、内陸部の活断層による地震や沈み込むプレート内の地震について理解する。						
1	3地震による災害 4マグマがつくる火山と景観	火山の形や噴火活動の様子がマグマの粘性と関係があることを理解し、火山活動と地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて説明できるようになる。						
2	5火山がもたらす恵みと災害 6水のはたらきと自然景観 定期考査	自然景観は、地殻変動などの大地の起伏を大きくする作用と、風化・土石流・流水などの大地を平坦にする作用に関わり、長大な時間の中で形成されていることを理解する。地域ごとの地質や地形、気候などの特性や火山や地震などの地球内部のエネルギーによる変動にも触れ、身近な自然景観の成り立ちを理解する。						
3	7土砂災害と洪水 8地球史	地質や地形、気候などの特性など、身近な地域に潜在する自然災害の危険性と、それに対する防災について理解する。地球史では古生物の変遷などに基づいて古生代、中生代、新生代の地質時代が区分され、各地質時代の相対的な長さを理解する。						

★最終評価総括(自己評価／実際評価)						自己評価総括			実際評価総括		
①知識・技能		②思考・判断・表現		③主体的に学習に取り組む態度		①	②	③	①	②	③
◎前期振り返り					◎後期振り返り					▶備考	